

29O-pm05

酵素的非対称化反応を用いた(-)-mycestericin Eの合成研究

○山田 裕明¹, 有馬 志保¹, 長光 亨¹, 福田 岳夫¹, 大村 智², 針谷 義弘¹ (¹北里大薬, ²北里大生命研)

【目的】当研究室では、酵素的非対称化反応を用い、アミノ基が隣接する不斉 4 級炭素の構築法の検討を行い、その結果を前年会において報告した。¹⁾ この酵素的非対称化反応により得られた光学活性モノアセチル体 (2)を用いて、免疫抑制活性を有する(-)-mycestericin E (1)²⁾ の全合成研究に着手した。

【実験・結果】2 から 5 工程でアルデヒド体 (3)を合成した。一方、市販の 1,3-dithiane から合成した 4³⁾をアルキン (5)とカップリングさせて 6 とし、その後 4 工程経てプロモ体 (7)へと変換した。現在 7 を Grignard 試薬とし、3 とキレーション制御による付加反応を行い目的の立体配置を有する 8 に変換した後、1 の合成を検討中である。



参考文献

- 1) 日本薬学会第 126 年会要旨集 2006, 4, 67
- 2) S. Sasaki *et al.*, *J. Antibiot.*, **1994**, 47, 420
- 3) S. Hatakeyama *et al.*, *Chem. Commun.*, **2001**, 2030

